

</

担当役員メッセージ



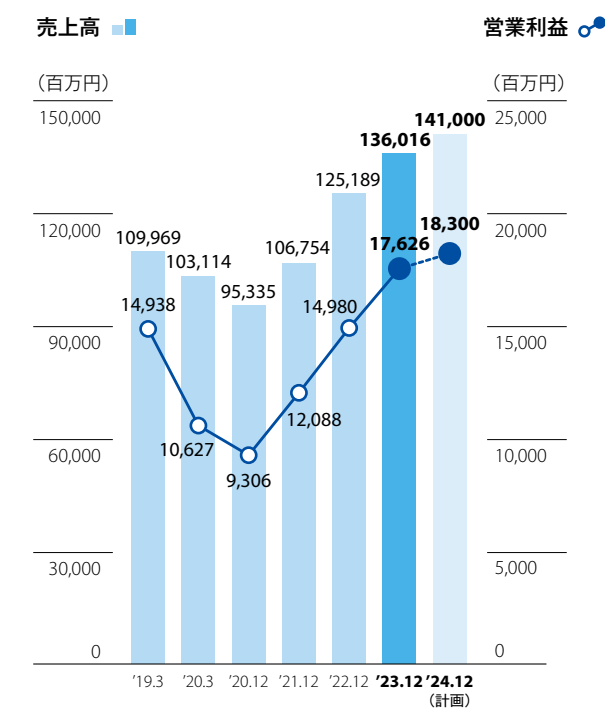
成長市場に向けた取り組みを加速させ、
事業ポートフォリオの変革を
目指してまいります。

小林 隆明
執行役 バルブ事業統括本部長

2023年度バルブ事業の業績の振り返り

2023年度の業績は、各施策の取り組みもあり、コアビジネスの売上高は前期比3.2%増の797億円、グロースビジネスが同16.9%増の345億円と伸長しました。特に半導体装置向け及び米州市場向けで増収となりました。販売数量が増加したことに加え、国内市場で前期及び当期に実施した価格改定効果などにより、中期経営計画における営業利益の最終年度目標を前倒しで達成することとなりました。

● バルブ事業セグメントの売上高・営業利益



・決算期変更の変則期間である2020年12月期は2020年1～12月を「前年同一期間」として算出した参考数値(監査対象外)を表示。
・バルブ事業の営業利益は全社費用等消去前の数値。

コア市場の基盤を維持しながら

グロース市場での新たな成長の足がかりを築く

これまで当社グループは、建築設備や石油化学などのコア市場を中心に収益を上げてきたと認識していますが、これから世界の産業をリードする半導体市場においてもバルブは欠かさない存在であり、また脱炭素を実現する水素社会に必要な技術を有する会社として、注目いただきたいとの思いがあります。

例えば、今後、半導体市場が上向いてくると、半導体製造装置のみならず、半導体材料、機能性化学市場やデータセンターを含めた建築設備市場、また半導体大型工場建設に伴う超純水・水処理市場も動き出します。

また、建築設備分野においては、上記の半導体工場やデータセンターなどに加え、国内では都市の再開発が目白押しです。海外では住宅や、商業施設も増加しています。商業・工業分野の建築設備は依然、世界的に大きな伸びが予想されます。

主力ビジネスの1つである石油化学市場も、従来の一次製品の製造から、二次、三次加工された新たな付加価値の高い機能性化学製品への移行も進んでおり、大きな潜在力を有しています。

また、安全・保守管理等における制御のリモート化、流体制御自体の高度化も含め、デジタル化の中身が変化し始め、またサステナビリティの視点からは、CO₂削減に向けた製造プロセスの変化も見られます。こうしたデジタルやサステナビリティといった社会的ニーズの高まりに伴い、コアビジネスに対するお客様の要求も変わりつつあり、その要求に確実に応えていくことで、新たな事業成長の機会になるものと捉えています。

水素／脱炭素市場への参入を加速

また、成長分野の一角として位置付けている水素/脱炭素市場では、すでに水素ステーション用のバルブ開発に成功していますが、現在は関連する多様な機器を集め、パッケージにて提供できる状況が整いつつあります。この結果、バルブ単体を販売するのみならず、水素ステーション建設において重要なポジショニングを取れる企業として評価されています。

2023年6月には、燃料電池自動車向け水素ステーションで培ってきた技術とノウハウを活かし、海運業の脱炭素化として注目される水素エンジン船の普及を進める技術商社・ジャパンハイドロ社と協業を開始しました(P39参照)。同社が研究・開発中の水素混焼エンジンを搭載したタグボートに水素を充填する、舶用水素ステーションの機器一式を納入する予定です。

今後も流体制御技術と高圧水素技術を結集し、水素社会を支える水素ステーション用バルブや主要機器を集約した当社グループ独自のパッケージユニットのほか、様々なアプリケーションを準備し、水素事業を拡大させるとともに、カーボンニュートラル社会の実現に貢献していきます。

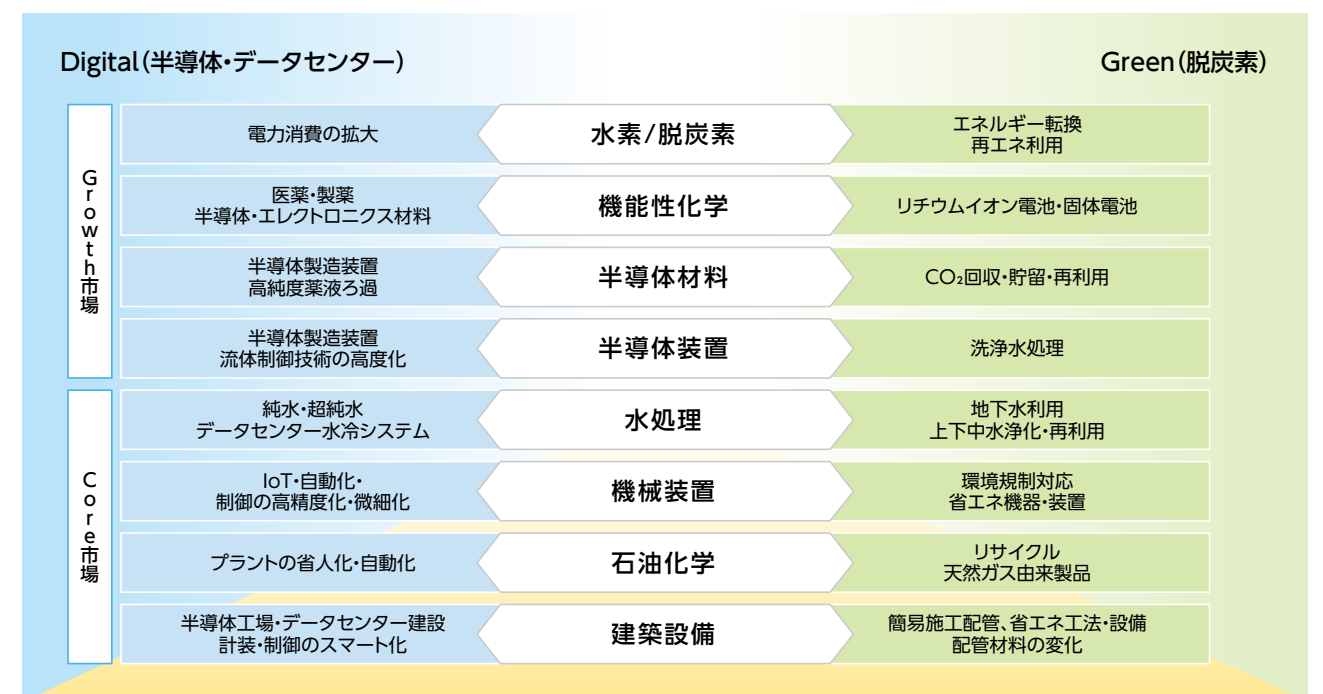
需要拡大に備えた成長投資を着実に遂行し 市場・エリア別戦略を強化する 「市場分野別ビジネスユニット制」へ

私たちのバルブが必要とされる市場が、全体的に底上げされることが期待されている今、半導体分野の新工場稼働、ベトナム新工場の建設着手など生産能力の増強、サプライチェーンのリスク回避に向けたグローバル体制強化、成長市場に向けた新製品の投入、成長領域におけるグループ生産シナジー強化等、着実に成長投資を実行することで、需要回復への準備を着々と進めています。

さらに、2024年度は、8つのターゲット市場で求められる製品を、製販技が一体となって迅速に開発・投入し、スピード感のある成長に結びつけられる組織体制を確立するため、各市場に対して製販技の機能を有するビジネスユニット制の導入に向けて準備をしています。

まずはバーチャル組織として、ビジネスユニット単位で数字を捉えながら、市場別あるいはエリア別戦略をより明確化していきます。組織再編に向けた試運転を1年かけて取り組む中で、様々な課題を洗い出しながら修正・対策を施し、第2期中期経営計画スタートとともに、市場別戦略を積極かつ迅速に実行できる新組織体制にしたいと考えています。

● ターゲット8市場における成長機会



KITZ Group + Water

世界の水インフラ需要に応えるために

水の安定供給を支える

水は、私たち人類をはじめ、植物や動物等、地球上のすべての生き物にとってなくてはならない生命の源です。キッツグループは、安心してお使いいただける商品・サービスの提供を通して、清潔で安全な水の安定供給を支え、人々のゆたかな暮らしに貢献しています。

水処理技術の進化

膜を使って水をきれいにする「浄水」の技術、海水等の飲用に適さない水を浄化・淡水化する「造水」の技術、さらには半導体市場の拡大を背景に純水や超純水に対応する技術等、キッツグループが持つ世界の水インフラ需要に応える技術は着実に進化しています。

水に関する問題の解決に向けて

バルブからニッケル、鉛が溶け出すのを防ぐ表面処理技術や鉛レス銅合金材料等、環境に配慮した技術開発を積極的に行い、国際的な水質基準に応えるほか、オゾン、紫外線及び光触媒により、水に溶けた有機物を分解する装置、あらゆる原水に対応する浄水装置や家庭用浄水器等の商品も展開しています。

世界では、水資源や水不足に関する深刻な問題が起きています。キッツグループは、すべての人々が清潔で安全な水を利用できるよう、グループの力を結集し、長年培ってきた経験、技術を通して、世界の“水に関する問題”の解決に貢献していきたいと考えています。



膜ろ過浄水装置 清水合金製作所

膜分離浄水システムを活用し、安全でおいしい水をつくる装置。



メータユニット キッツ

水道メータと継手類をユニット化。



青銅・黄銅製バルブ キッツ 東洋バルブ

オフィスビル、ホテル等の建築設備の空調や衛生、工場の生産設備や工作機械、装置等、あらゆる分野で使用される。



給湯器用バルブ キッツ 東洋バルブ

コンパクトな省スペース型の給湯器に合わせて設計。



家庭用浄水器 キッツマイクロフィルター

中空糸膜製造技術を応用した家庭用浄水器。



ピュアキレイザー 東洋バルブ

オゾン・紫外線・光触媒を組み合わせ、促進酸化処理を用いた画期的な水処理装置。



ソフトシール仕切弁 清水合金製作所

水道管路用として最も多く使われている。



給水装置用バルブ キッツ

給水管と配水管をつなぐ分水栓、止水栓、金属継手等幅広い商品をラインナップ。



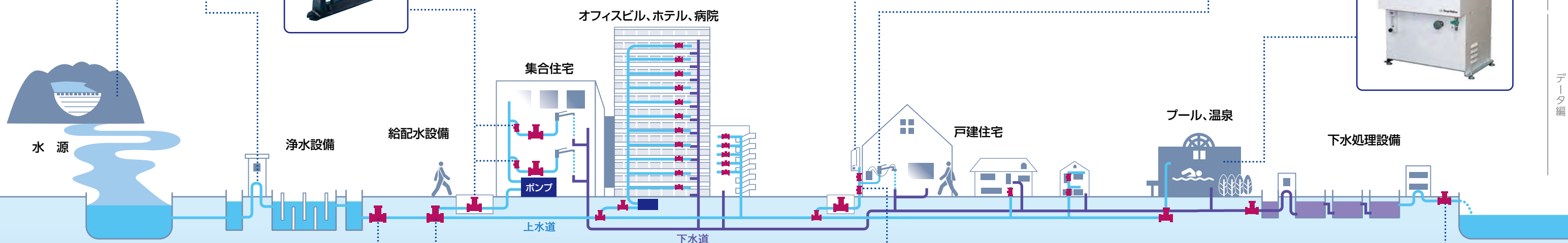
給水設備用バルブ キッツ 東洋バルブ

鉛の浸出量を抑え、給水・給湯ラインの安全性を確保。



水処理施設用バルブ キッツ

ゲートバルブやボールチャッキバルブ等、下水処理の過程で必要とされる。



KITZ Group + Energy

産業を動かす大切なエネルギー資源を 絶え間なく送り続けるために

エネルギーの安定供給を担う

産業を動かすエネルギーは、欠かすことのできない大切な資源です。キッツグループは、石油精製・石油化学プラントやガスパイプライン、LNG(液化天然ガス)基地等のプロセスラインに、エネルギーの安定供給を担う商品を提供しています。

過酷な環境で流体を制御

エネルギープラントでは、高温・高圧の流体が配管を流れるため、過酷な環境に耐えられるバルブが求められます。キッツグループでは、流体の種類や温度、圧力等、厳しい使用環境を想定した様々な試験や分析・評価を繰り返し行い、この厳しい条件をクリアした商品だけがラインナップに加えられます。

グリーンなエネルギー社会に向けて

カーボンニュートラルに向けたエネルギーの脱炭素化が加速する中、石炭や石油に比べ燃焼時の二酸化炭素排出量が少なく地球温暖化抑制に寄与するLNG(液化天然ガス)や、次世代エネルギーの本命といわれる水素に関心が高まっています。特に水素については、大量輸送のための液化水素向け大口径バルブの開発に着手するなど、そのサプライチェーン全域にキッツグループのバルブを供給することを目指しています。

再生可能かつクリーンなエネルギーが世界中のすべての人々に届くよう、脱炭素社会の実現に貢献するための製品開発に力を入れています。



メタルシートボールバルブ Perrin GmbH

高温流体や摩耗性流体にも対応可能。耐久性も高い。



ステンレス鋼製バルブ キット

耐食性に優れ、化学プラントや石油化学工業で幅広く使用される。



空気圧式・電動式自動操作バルブ キット

アクチュエータを搭載した自動操作バルブ。



全溶接形鍛鋼製ボールバルブ キット

漏れを確実に防ぐ安全設計のパイプライン用ボールバルブ。



水素ステーション用 超高圧ボールバルブ キット

優れた封止性能と耐久性を持つ水素ステーション用超高圧ボールバルブ。



高純度ガス用バルブ キットエスシーイー

半導体製造用のクリーンなステンレス製ダイヤフラムバルブ及びベローズバルブ。



原油・天然ガス
掘削現場

原油

ガス

石油精製・石油化学プラント

LNG(液化天然ガス)基地・
搬送設備

火力発電所

水素ステーション

半導体
製造設備

3ピース・トラニオンボールバルブ KITZ Corporation of Europe, S.A.

石油精製から石油化学産業まで、化学、ファインケミカル、エネルギー分野で幅広く使用される工業用フローティング・トラニオンボールバルブ。



鋳鋼製バルブ キット

各種プラントの高温・高圧の条件下での使用に適している。



小型自動操作バルブ キット

産業用生産プロセスラインでの小口径配管ラインの自動化ニーズに対応。



LNG用低温調節弁 ワイケイブイ

米・VALTEK INCORPORATED (現FLOWSERVE CORPORATION)の技術に基づいたLNG用低温調節弁。



低温用バルブ キット

LNG製造・受入れ・サテライト基地向けをはじめ、エチレンプラント、工業用低温ガス等に対応。



精密ろ過フィルター キットマイクロフィルター

半導体や医療に貢献する微細孔径、低溶出の中空糸膜フィルター。



高付加価値を生み出す研究開発体制

時代が求める多様なニーズにお応えするため、「安全性」、「耐久性」、「信頼性」を誇る流体制御機器を生み出しています。

研究開発のコンセプト

キッツグループの技術部門は、キッツ宣言「わたしたちは、流体制御技術と材料開発で社会インフラを支え、ゆたかな地球環境と持続可能な未来を創造していきます」を実現するために、積極果敢に研究開発に取り組んでいます。

■コアテクノロジー

バルブの核となるシール技術、素材及び工法技術における一貫した要素技術開発

■ソリューション提供

お客様や市場の困りごとに密着し、お客様に喜んでいただける商品・サービスを提供

■スピード&グローバルネットワーク

世界各地域のお客様の多様なニーズにお応えする、国内外のグループネットワークを活用した迅速な製品開発

次世代に向けたソリューションを提供するために

創業70周年記念事業の一環として、茅野工場敷地内に建設した「KITZ Group イノベーションセンター」が、2022年3月に稼動を開始しました。

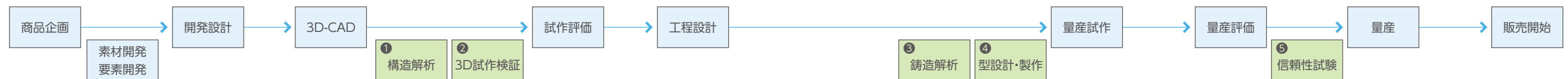
開発、設計部門の執務スペースのある2階は、ミーティングスペースが充実しており、アクティビティベースドワーキング(ABW)※の導入により、自由で柔軟な発想や知見の交換が促進される空間となっています。

また、3階には創造的な発想で新たな価値を生み出す「デザイン思考」を実践するための「イノベーションスタジオ」を設けており、ここを起点に、お客様に喜んでいただける革新的な商品やサービスをスピーディーに提供してまいります。

※ABW:その時の仕事内容に応じて、働く場所を選ぶワークスタイル



●バルブの研究開発工程



流体解析



構造解析



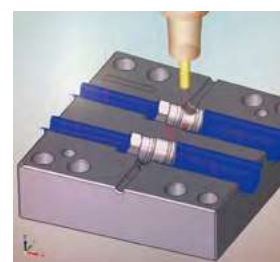
②3D試作検証

3Dプリンター造形により、早期に試作品での検証が可能。お客様が触れられるサンプル品としても活用。



③鋳造解析

凝固解析により鋳造に最適な型の方案設計を行う。



CAM

④型設計・製作

型設計を行ったCAM※データで加工設備に反映し、自社内で型を製作する。

※CAM: Computer Aided Manufacturing

世界のユーザーの信頼に応えるトップレベルのテクノロジー

キッツグループの開発設計部門は、建築設備、石油化学、クリーンエネルギー、水処理及び半導体等の幅広い分野で、お客様に価値を提供できるよう研究開発に取り組んでいます。

グループのシナジーを最大限に発揮するため、日本をはじめ、欧州、米州、アセアン及び中国の技術者が協働し、グループウェア等のネットワークを活用しながら製品の開発設計を進めるなど、各地域の人財や技術を活かした世界最適設計の技術体制を確立しています。また、各国の市場や法規制に適合する素材及び仕様による製品開発も展開しているほか、PLM※の活用により、製品、設計図面及び部品表を一元管理し、マーケットニーズに応じた製品開発を推進するなど、DXの積極的な導入による効率化にも取り組んでいます。

時代が求める多様なニーズにお応えするため、技術者一人ひとりがスキルを高め、日々、価値創造に挑戦し続けることによって、卓越した「安全性」、「耐久性」、「信頼性」を誇る流体制御機器を生み出しています。

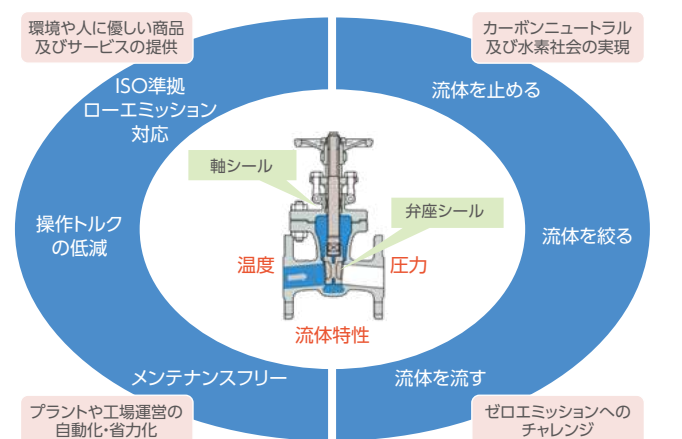
※PLM: Product Lifecycle Management

幅広い分野でライフラインを支えるシール技術と材料開発

汎用バルブ単体の製造からスタートしたキッツは、時代のニーズを先取りし、流体のオン/オフ制御から自動制御、そして単体から複合ユニットへと、高付加価値製品の開発に取り組んできました。

それを可能にしているのは、バルブの核となるシール技術と材料開発です。シール技術は、低圧から超高压、極低温から高温までの幅広い分野に展開され、これまで9万種を超える製品を生み出してきました。また、長い歴史の中で培われてきたノウハウにより、最適な金属材料を自社で開発し、それを高い鋳造技術により製品化してきました。これらの技術は現在も進化しています。

●バルブの核となるシール技術



⑤信頼性試験

あらゆる使用条件を想定した試験・分析を行う。



低温試験

LNGは低温の流体のため、低温状態を再現して試験を行う。



ファイアテスト

バルブのシール部材が完全に焼損するほどの火災にあっても、バルブとしての機能を維持することが可能であることを確認する。



ブローオフ試験

高温・高圧の流体制御では、バルブの開閉時に大きな力加わるため、使用限界条件下でのバルブの正確な作動を確認する。



ローエミッションテスト

国内では、唯一、API規格に基づくメタンガスによる試験設備を自社で保有。実際の流体を使用した外部漏れ試験を行う。

高品質を実現する生産体制

キッツグループのモノづくりは、お客様が必要とする商品を「必要な時に」、「必要な量だけ」、「より良い品質で」お届けすることを基本としています。

素材からの品質管理を実現した一貫生産体制

キッツグループはバルブの素材である鋳物(素形材)をコア技術と位置付け、社内で鋳物から一貫生産しています。バルブの主要材料である青銅、鋳鉄、ダクタイル鋳鉄、ステンレス鋼、鋳鋼、それぞれの鋳造設備をグループ内で持ち、素材からの品質保証体制の確立と多品種少量生産を実現しています。

マーケットインの発想によるモノづくりを支えているのが、「KICS(KITZ Innovative and Challenging System)」に基づく生産方式です。KICSは、売れるタイミングに合わせて工程順に1個ずつ製品を作ることで、後工程には良品しか流さない仕組みを確立するとともに、受注から生産、納品までの一連の工程における停滞や無駄の排除を実現しています。また、さらなる納期短縮を目指し、標準作業の徹底と工程改善による製造ラインの強化に継続して取り組んでいます。

長坂工場では鋳型製作用の3Dスキャナーを導入しています。長年、製造現場で使用されてきた鋳型には、技術者による鋳物製作のための工夫やノウハウが蓄積されています。これらのノウハウを3Dスキャナーでデータとして蓄積し

活用することにより、社内における鋳造技術の標準化と品質向上、さらには鋳型製作から製品完成までのリードタイムの短縮を実現し、お客様へのサービス向上につなげています。



3Dスキャンされた鋳型

環境に優しく、付加価値を生み出す製造現場に

キッツは、地球に優しく持続可能な生産プロセスの実現を目指し、環境改善に向けた新しい生産技術の研究開発を積極的に進めています。鋳造工程で使用される砂の再利用や、バルブの検査等で使用される水資源の循環利用、環境に優しい塗料の研究等にその取り組みを広げています。お客様と社会全体に新たな付加価値をいち早く提供できるよう、2022年に稼働を開始した茅野工場敷地内のKITZ Group イノベーションセンター内に研究ラボを新設し、これらの技術研究についての取り組みを加速させています。



KITZ Group イノベーションセンター 研究ラボ

品質マネジメントシステムに裏付けられたキッツブランド

キッツは、品質マネジメントシステムの重要性にいち早く着目、1989年11月、日本企業で最初にISO9001の認証を取得しました。現在では、キッツグループにおける国内外すべての生産拠点においてISO9001の認証を取得し、国内においては、本社、長坂工場、伊那工場及び茅野工場で認証を継続しています。2019年2月には、グループ会社である株式会社キッツエンジニアリングサービスが、キッツグループでは初となる「バルブのメンテナンスサービス」の登録範囲において認証を取得しました。そのほか、2001年7月に日本のバルブメーカーとして最初にPED※1の認証を取得、その後、台湾、タイ、中国、スペイン、ドイツの生産拠点でも認証を取得しています。

こうした国際的な品質規格に加え、国内では、高圧ガス保安法に基づく大臣認定試験者、JIS※2製品認証やJWWA※3



研究ラボで環境に優しい塗料を研究

が定める規格、また、国内及び中国の生産拠点において、API※4のMonogram表示許可等を取得しています。

※1 Pressure Equipment Directive ※2 日本産業規格
※3 日本水道協会 ※4 アメリカ石油協会

世界最適地生産を目指したグローバルな生産ネットワーク

キッツグループは、グローバルな生産ネットワークの構築を進めています。国内工場は高付加価値製品の生産を行うとともに、グローバル生産拠点のマザー工場としての重要な役割を担っています。海外では、タイ、台湾、中国、韓国、インド、スペイン、ドイツ、ブラジルに生産拠点を設け、現地のマーケットニーズに的確かつ迅速に対応するための生産体制を構築しています。また、中国・台湾での生産の一部をベトナムに移管することを決定するなど、都度、生産体制の見直しを行っています。

● ステンレス鋼製バルブの生産工程



①溶解
原材料を高周波電気炉で溶かす。



②受湯
溶湯を取鋼に入れる。



③注湯
鋳型に溶湯を流し込む。上と下の型と中子のすき間に溶湯が流れ込む。



④熱処理(固溶化熱処理)
素材を1,100℃まで加熱した後、急冷(水冷)。これにより、均一な金属組織が得られ、引っ張り、伸び等の機械的性質(強度)を高めるとともに、耐食性を確保できる。



⑤酸洗
熱処理やショットブラストによる鋳肌表面の酸化スケール等の汚れを取り除く。併せて、鋳肌表面に保護皮膜を生成させ、耐食性をさらに高める。



⑥機械加工
切削や穴開け等の加工を行う。



⑦組立
バルブの各部品を組み立てる。



⑧圧力検査
流体を流して圧力を加え、要求品質を満たしているかを検査する。

広範で強固な販売ネットワーク

キッツグループは、国内においては創業当初より、全国をカバーする強力な販売網を確立してまいりました。現在では、お客様が求める品質、価格、納期、サービスのすべてにお応えするために、グローバルな販売ネットワークの構築を進めています。

充実した流通体制

日本全国をカバーする強力な代理店網により、お客様の声に即応できる販売体制を構築しています。これらの代理店とキッツは専用回線やインターネットでつながれ、マーケットの需要が生産の現場へ直接フィードバックされるとともに、業務効率の大幅な改善と業務のスピードアップを実現しています。また、各代理店が持つ在庫の基準量を商品ごとに定め、出荷された数量を日単位で補充することにより、在庫量を一定に保つ後補充方式を採用。基準在庫を設定した商品の在庫量の把握が不要となるほか、即納ニーズへの対応も可能となります。



国内販売におけるキッツの強み

キッツは、私たちの身近な生活フィールドからあらゆる産業分野の生産プロセスに至るまで、多彩な商品を広範で強固なネットワークを通じて提供しています。

各市場のお客様が、採用するバルブメーカーを決定します。キッツは、お客様からのご要望に幅広くお応えするため、使用条件や困りごとを詳しくお聞かせいただき、最適なバルブを選定し、価格・納期について迅速にご回答しています。

納入後は、技術支援、部品供給及び現場点検修理等の、きめ細やかなサポートを通してお客様に寄り添い、さらなる信頼関係の構築に努めることにより、納入実績のある

お客様からのリピートオーダーや、既設のバルブに対するメンテナンスのご依頼をいただくなど、お客様とWin-Winの関係を築いています。

アフターサービスは、株式会社キッツエンジニアリングサービス(略称:KESCO)が担当しています。KESCOのサービス拠点と協力会社との連携により、全国各地にスムーズで幅広いメンテナンスサービスを提供しています。

KESCOは、ISO9001の認証を、「バルブのメンテナンスサービス」の登録範囲で取得しており、また、他社製バルブのメンテナンスにも適切に対応するため、海外を含むバルブメーカーから、バルブメンテナンスに関する認証・資格を取得しています。

KESCOは、人材の育成にも力を入れています。OJTによる教育では、ベテランと若手がチームを組み、実際のメンテナンス作業の中で、仕事を身に付ける体制を構築しています。資格取得のための支援制度も充実しており、玉掛、フォークリフト、ガス溶接、施工管理等、メンテナンスに必要とされる様々な分野の資格取得を、社員教育の一環として推進しています。

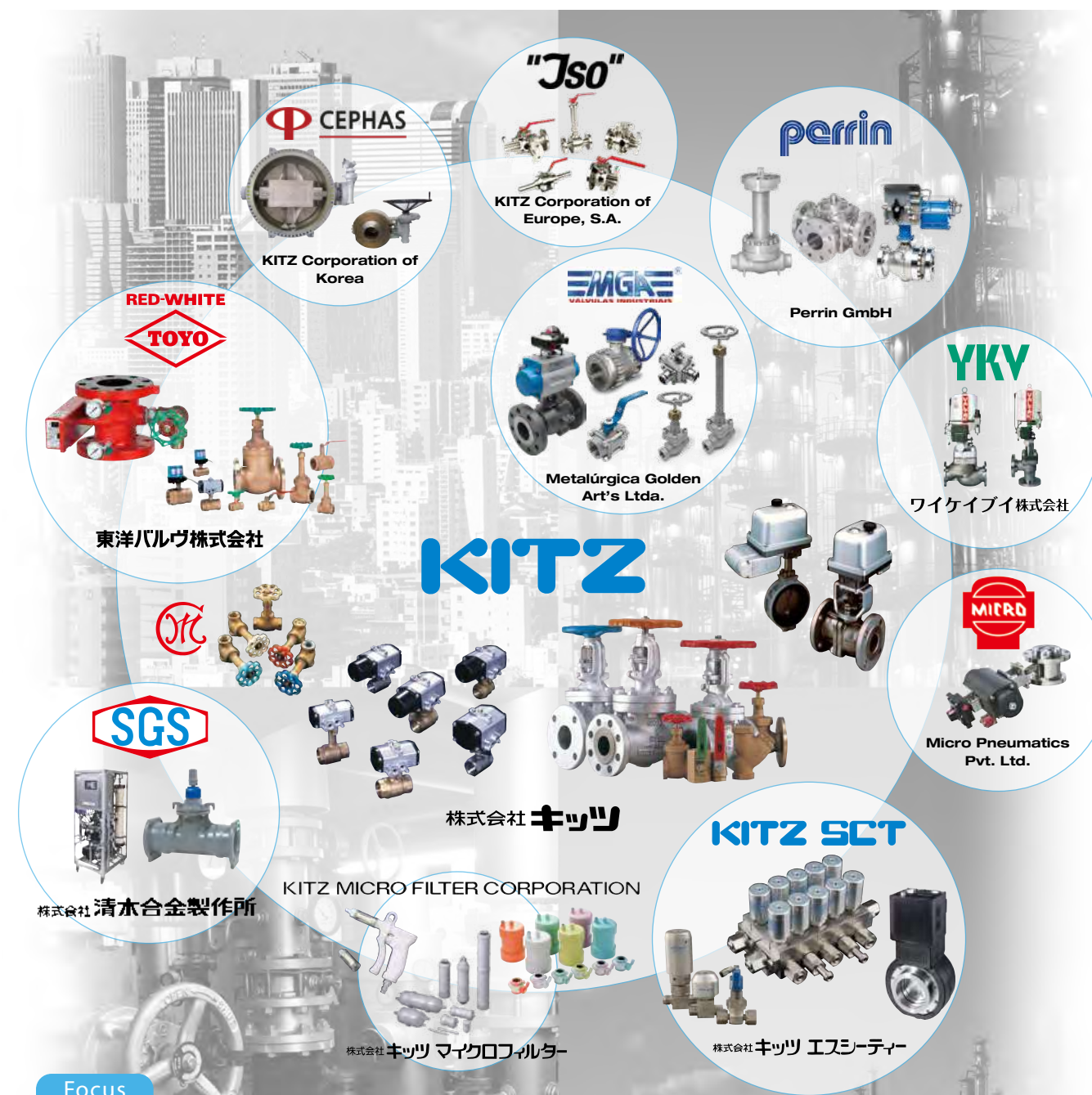
市場環境に応じた販売体制

海外市場では、それぞれの市場環境に応じた販売、サービス体制を強化しています。エリアごとに、販売、マーケティング、エンジニアリング、ストック、メンテナンス、サービスの機能を持ち、地域に密着した事業を展開し、現地のお客様にご満足いただける商品・サービスを提供しています。

インド、U.A.E.に駐在員事務所を置くほか、中国、香港、韓国、シンガポール、タイ、マレーシア、ベトナム、アメリカ、ドイツ、スペイン、ブラジルに販売拠点を設置し、グローバルな販売ネットワークを構築しています。また、個別のご要望に迅速に対応するために、バルブの改造や修理を行う「キッツオフィシャルモディフィケーションショップ」網を展開しています。

信頼のブランド

キッツグループは、多数の商品ラインナップを揃え、その品質は国内外のお客様から高い信頼を得ています。中心となるKITZブランドをはじめ、様々な市場、分野で使われる12のブランドを展開しています。



Focus

菊ハンドルは信頼されるバルブのブランド **KITZ** のシンボルです。

日本を代表する工業デザイナー 柳 宗理(やなぎ そうり)氏(1915~2011年)の協力により誕生したハンドルは、人間工学の観点からも握りやすさを追求。指がかりの形に、大輪の菊の花弁がもつ「ふくよかさ」をシンボライズさせているため、愛称を「菊ハンドル」としました。1980年9月から青銅製バルブのハンドルデザインに採用し、順次、ほかの製品にも展開してきました。



黄銅棒の製造・販売を担う

キッツグループは、黄銅棒及び黄銅加工品（切削品及び鍛造品）の製造・販売を行う伸銅品事業を展開しています。黄銅棒は、各種機械、建築資材等に幅広く使用されています。

黄銅とは

黄銅とは、銅（Cu）と亜鉛（Zn）の合金であり、銅と亜鉛の割合を変化させたり、様々な金属元素を添加することにより、電気伝導性、熱伝導性、耐食性、塑性加工性及び切削加工性等、多くの優れた特徴を持たせることができる金属です。



伸銅品事業について

キッツグループの伸銅品事業を担う株式会社キッツメタルワークスは、黄銅製バルブの素材を開発・供給するとともに、水栓金具、ガス機器、家電製品及び自動車部品等の素材として幅広く使用される高品質な黄銅棒と加工品（切削品、鍛造品）の製造・販売を行っています。

グループの北東技研工業株式会社は、切削品及びロウ付け加工品の製造・販売を行っています。

環境規制に対応する新製品

近年、世界的に環境負荷物質に対する規制が強化されています。特に、欧州では鉛規制が厳格化される方向にあり、鉛レス黄銅棒の需要拡大が見込まれています。

キッツメタルワークスは、従来から販売しているビスマス系鉛レス黄銅棒「キーパロイ」シリーズに加え、高いリサイクル性を有する「キーパロイII」シリーズの販売を開始。さらに2019年には、三菱伸銅株式会社（現三菱マテリアル株式会社）とシリコン系鉛レス黄銅棒「エコプラス®」シリーズのライセンス契約を締結しました。「エコプラス®」は、JIS規格、

欧州EN規格及び米国ASTM規格に登録されているグローバル材料であり、高耐食、高強度な性質を有しています。



エコプラス®

SDGs推進企業としての取り組み

キッツメタルワークスは、SDGsに向けた様々な取り組みの一環として、2022年4月からCO₂フリー電力を導入し、2023年3月までの期間にCO₂排出量削減率86.6%を達成しました。また、自動車や電気・半導体、住宅設備など幅広い分野で使用される銅合金棒（黄銅棒）の製造においても、環境負荷の少ないエネルギーで製造された素材の需要が高まっているため、2023年2月からはカーボンニュートラルガスへの切り替えを行い、CO₂排出量削減率90%以上を目指しています。

また、同社で製造する黄銅製品は、リサイクル性が高いことが特徴です。より一層のリサイクル推進により、環境負荷の低減に取り組んでまいります。



黄銅棒の生産工程



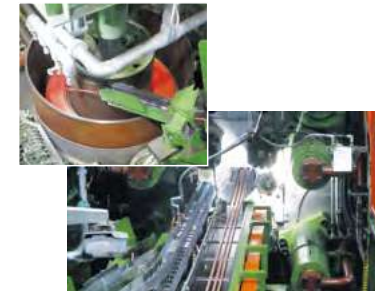
①原料配合・溶解
原材料を誘導炉で溶かす。



②連続 casting
水冷式横型連続 casting 機または縦型半連続 casting 機で casting 塊を casting する。



③切断
 casting 塊を大型の切断機で決められた長さに切断し、押し出し用のピレット（中間製品）にする。



④加熱・押し出し
ピレットを所定の温度まで加熱。押し出し機により、直線棒またはコイル状に押し出す。



⑤連続酸洗
押し出し工程で表面に付着した酸化物を、酸洗いにより除去する。



⑥冷間 drawing
直線棒・コイルを drawing 機のダイスに通し、正確な形状と寸法の棒材に仕上げる。



⑦矯正・切断
矯正機によって棒材の曲がりを取り除き、所定の長さに切断する。



⑧低温焼鈍
棒材の残留応力の除去や硬さの調整のため、所定の温度で低温焼鈍を行う。



⑨計量・梱包・出荷
完成した棒材を、所定の重量または本数で結束・梱包し配送する。

「ホテル紅や」もキッツグループです。

創業者 北澤利男の生誕の地である長野県諏訪市。周辺には、キッツの茅野工場及び伊那工場のほか、キッツメタルワークス、キッツマイクロフィルター等、グループの生産拠点・事業所が数多く所在しています。

また、中央自動車道（下り）諏訪湖サービスエリア及び上信越自動車道（上り）東部湯の丸サービスエリアも運営しており、地元の特産品を取り入れた料理の提供や、土産物の販売を行っています。

この度、全国の「楽天トラベル」登録宿泊施設を対象に、過去1年間で顕著な実績を上げた高い評価を得た宿泊施設を表彰する制度である『楽天トラベルアワード2023』において、「楽天トラベルゴールドアワード」を受賞しました。これからもより良いサービスをお客様に提供できますよう、スタッフ一同日々精進してまいります。



担当役員メッセージ



ROIC経営を深化させ、中長期的に
投下資本収益性を向上させることにより、
持続的な企業価値の向上を目指してまいります。

別所 研一

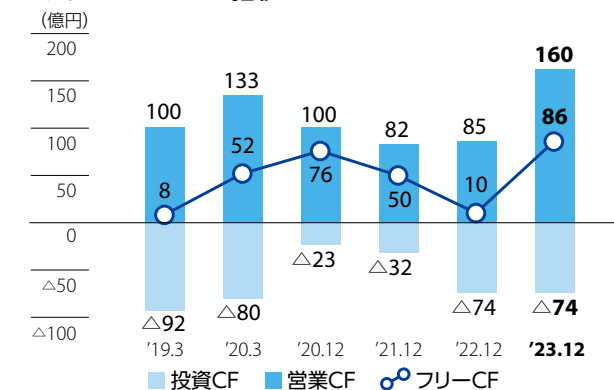
執行役 コーポレートファイナンス本部長

当期(2023年度)の取り組み

当期は、新型コロナによる行動規制や入国制限が撤廃され、経済活動の正常化が見られた一方で、ロシア・ウクライナ情勢の長期化による資源価格の高騰や金融引き締めによる景気の下振れ懸念など、先行き不透明な状況が続いたものの、半導体市場向けの増収があったほか、米州向けを中心に増収となったことなどにより、前期比で増収増益となりました。

このような状況の中、原材料価格の高騰等に伴う棚卸資産等の増加や投資支出の増加はあったものの、増益に加え投資有価証券の売却もあり86億円のフリー・キャッシュ・フローを確保しました。また、投資資金として長期借入金19億円を調達した一方、借入金の返済・社債償還を進めたため有利子負債は前期末比4億円減少し、営業キャッシュ・フローの増加もあり、現預金を差し引いた純有利子負債は前期末比50億円の減少となりました。自己資本比率は増益と為替換算調整勘定の増加もあり60%と前期末比1ポイント上昇しました。ROEについては11%となり前期に続き高水準を維持しました。引き続き10%以上の水準を安定的に達成してまいります。

● キャッシュ・フロー推移

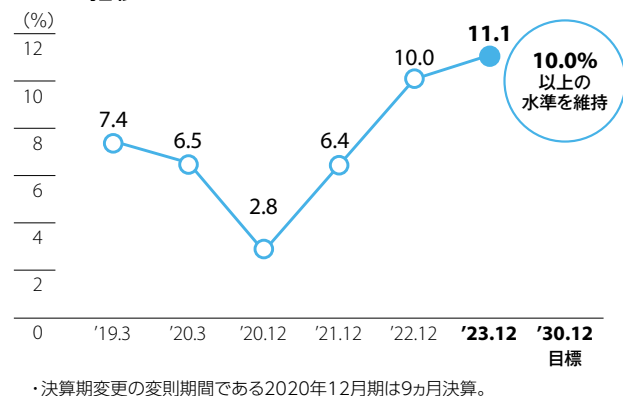


中期財務戦略・資本政策

第1期中期経営計画では、経営の基軸を「中長期的な投下資本収益性の向上」に置き、対外目標であるROE向上のため、社内でROICを導入しました。初年度はその構成要素を現場のKPIに結び付けるためのROICツリーを策定し、次年度の当期はその展開による各事業部門とグループ会社のKPIの設定を完了しました。最終年度はその改善を図るためのPDCAを回す仕組みを社内構築し、社員が定めた目標を会社の目標に連動させ「自分ごと」として注力することで、企業価値の向上に繋がることを目指します。損益面では、製品ポートフォリオの見直しによる収益性の改善、資産面では、棚卸資産の適正化によるCCC※1の改善や政策保有株式の持合解消、グループ資金の効率化による資産圧縮に引き続き努めてまいります。また、将来の成長・収益性の確保のため、半導体、機能性化学及び水素等の成長・新規分野を中心とした積極的な投資を継続的に実施してまいります。以上の取り組みを通して、長期経営ビジョンに掲げるROE10%以上を安定的に達成することで、当社の中長期的な収益の成長期待について、資本市場の信頼を獲得してまいります。

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けては

● ROE推移



“ROIC×ESG”経営の推進、成長戦略の加速及びIR戦略の強化を進めることなどにより、さらなる利益の創出、成長期待の醸成及び資本コストの低減を実現し、企業価値の向上を目指してまいります。

※1 CCC:キャッシュ・コンバージョン・サイクル

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について(2023年12月13日リリース資料)の詳細はウェブサイトをご覧ください▶



キッツは、資本効率の向上と株主還元を重視するとともに、経営環境の変化やリスクへの対応のために、資本収益性に加えて資金調達力を加味した最適資本構成の維持を財務戦略・資本政策として掲げており、自己資本比率の水準を55～60%程度としています。

また戦略投資や社債償還への対応を含め、機動的な資金調達を実施できるよう、取引銀行各行と良好な関係を維持しています。加えて公募社債発行にも対応できる借入余力の確保に向けて、社債格付A格の維持に努めており、格付投資情報センター(R&I)のA-格付を取得し、総額200億円の新規社債発行枠の登録を行っているほか、日本格付研究所(JCR)のA格付も取得しています。

第1期中期経営計画の3ヵ年で創出する営業キャッシュ・フローは、その大半を投資に振り向けることとしています

が、3ヵ年累計のフリー・キャッシュ・フローはプラスを維持してまいります。また、手元資金の縮減により資金効率の向上を目指しますが、主要銀行との間の短期借入に関する特別融資枠(コミットメントライン135億円)はリスク対応として引き続き維持し、手元流動性を確保してまいります。

株主還元

当社は、株主の皆様への利益還元を経営上の重要課題と位置付けておりますが、従来の利益還元に加えて、中長期的な株価上昇による株主還元の実現も同時に目指してまいります。

利益還元に関しまして、連結配当性向は、親会社株主に帰属する当期純利益の35%前後を望ましい水準とし、利益成長による増配をもって、株主還元の向上に努めてまいりたいと考えております。当期の1株当たりの配当額は過去最高の41円となり、連結配当性向は34.7%となりました。また、自己株式の取得については、財務安定性、手元資金流動性及び投資資金の状況も勘案し、適宜、検討してまいります。

2024年度の配当金は、1株当たり41円を予定しており、継続性と安定性にも留意した配当の実施を目指してまいります。

財務戦略(2024年度計画)

